

## 四国におけるコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況

### ◇日本国内のコウノトリの生息の現況

#### 日本国内の飛来・生息状況

1971年に日本の野生コウノトリは絶滅しました。その後、コウノトリの保護増殖と放鳥が進められ、国内の野外個体数は徐々に増加しています。コウノトリの野外個体数は144羽（2018年12月16日現在）で、コウノトリの飛来自治体数は、北海道、沖縄県を含む全国47都道府県416市町村に達しています（2018年6月時点）。

豊岡盆地周辺以外では、2017年以降に徳島県鳴門市、島根県雲南市、京都府京丹後市網野町、兵庫県養父市八鹿町で、野外コウノトリのヒナが誕生しています。

野外のコウノトリ個体数（2018年12月16日現在）

内訳	オス	メス	合計
放鳥個体	26	18	44
野外巣立ち等	37	61	98
野生個体	0	2	2
合計	63	81	144

コウノトリの郷公園ウェブサイト参照

#### 救護・死亡個体の増加

コウノトリの救護・死亡要因として、防獣ネット・電柵・防鳥用テグスなどへの絡まり、送電線や鉄塔に関する事故、交通事故、誤射などの人間活動に起因するものがあげられています。2017年度に人工物が原因で傷ついたり死んだりしたコウノトリの個体数は、2005年の放鳥開始から最多となる19羽でした。コウノトリの野生復帰が進む中、安全な環境づくりが課題となっています。

#### コウノトリ野生復帰の手引書等の発行

コウノトリへのさまざまな対応について飛来先の自治体が注意すべき点などをまとめたパンフレット『あなたのまちにコウノトリが飛来したら、』（兵庫県立コウノトリの郷公園・IPPM-OWS 2015）、野外コウノトリの対応や環境整備等をまとめた『コウノトリ野生復帰の手引書』（IPPM-OWS 2018）が発行されています。

※IPPM-OWS：コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル



